

表7 昭和60年度県文化センター事業

事業名		実施期間	場所	内容(出演者・演目等)	参加入場人員
自 治 体 の 主 導 下 に お け る 事 業	舞台芸術鑑賞事業 交響楽のひととき	9. 8	県文化センター	(財)日本交響楽振興財団の企画 (新日本フィルハーモニー交響楽団)	1,350
	少年劇場	6. 12~6. 29	福島市ほか8市5町1村	児童生徒向けの演劇教室、学校の教育課程に 組み入れて実施(劇団仲間)	21,764
	親子劇場	7. 7	県文化センター	幼児童向けの等身大ぬいぐるみ人形によるミ ュージカル劇(劇団飛行船)	3,200
自 治 体 の 主 導 下 に お け る 事 業	福島県明日の新人による パレエフェスティバル	6. 30	県文化センター	福島県洋舞連盟所属団体傘下の若手新人によ るパレエフェスティバル	1,080
	福島県吹奏楽トップコ ンサート	6. 30	いわき市平市民会館	福島県吹奏楽連盟との共催による前年度県コ ンクール上位入賞団体の演奏会	1,520
	福島県三曲演奏会	5. 26	県文化センター	福島県三曲連盟との共催による、同連盟加盟 会員の合同発表演奏会	1,120
主 導 下 に お け る 事 業	文化講座(郷土史) (放送利用)	7. 27~8. 11 年間	いわき市文化センター 県文化センター	(郷土史)生活に密着した歴史を学習する (放送利用)文学、法学、東洋史の3コースの講座	会員 481 〃 118
	文学講演会	10. 12~10. 13	郡山市・喜多方市	(財)日本古典文学会所属の著名講師による講 演会	165
	地方史研究講習会	10. 25~10. 26	県文化センター	近世の本県諸藩の歴史を講義する	155
	古文書研究講習会	11. 14~11. 15	桑折町福祉センター	古文書の調査、解読法を中心に講義	未実施
業 界 の 主 導 下 に お け る 事 業	展示・公開事業 収蔵資料展	6. 21~8. 30	県文化センター	福島県歴史資料館に収蔵の資料を展示	1,530
	福島県産業資料展 ~養蚕・和紙・伝統こけし~	9. 20~10. 31	県文化センター	江戸から明治にかけて本県で発展した産業全 般の古文書、諸道具等を公開	1,850
	郵便資料展 ~金子一郎コレクション~	4. 20~5. 19	県文化センター	郵便創業関係、郵便史関係資料など貴重な資 料を展示公開する	1,576
業 界 の 主 導 下 に お け る 事 業	普及・奨励事業 映画教室(一般向) (児童向)	5月~3月 7. 27~8. 17	県文化センター	芸術、科学映画および劇場用名画を上映 道徳、漫画、劇映画を児童向として上映	実施中 1,940
	地域文化振興協力事業	年間	県内各市町村	芸術文化各分野の講習会へ講師を派遣する	実施中
	出版事業			県委託事業の「福島県文化活動指導者名簿」の 個人購入者を募り、増刷し実費頒布する	実施中
委 託 事 業	家庭劇場 (音楽公演) (児童劇公演)	5月~6月、9月	保原町ほか24町村	小規模の音楽会及び児童劇公演を学校の体育 館、公民館等を会場として開催 (音楽)「こんにちは真理よこです」 「ミュージカルアカデミーうたはもだち」 (児童劇)「魔法をかけられた王子たち」	12,227
	文化庁移動芸術祭 (広報活動)	6月~10月	会津若松市市民会館 白河市市民会館 二本松市文化センター	「夏の夜の夢」(劇団昂)公演 (札幌交響楽団)公演	2,417
	福島県文化活動指導者名簿 作成			文化各般の指導者を登録した名簿を作成する (部門)美術、音楽、舞踊、演劇、文芸、映画、 生活文化、演芸、伝統文化	名簿登載 918

十四、福島県立美術館

昭和五十九年七月に開館した福島県立美術館は、開館一周年に当たる本年七月に入館者が十万人を越え、美術愛好者の間に着実に浸透している。二年目を迎えた昭和六十年度は、県民の期待に応えるべく、各種事業ならびに館機能の一層の充実を図っている。

美術館では、企画展、常設展、講演会、各種の講座等を開催し好評を得ているが、以下は六十年事業の概要である。

1、企画展

(1)「生誕一〇〇年 川端龍子展」

四月二十日~五月十九日

近代日本画の巨匠川端龍子の代表作五十八点を展示し、雄渾な龍子芸術の足跡をたどるものであった。

(2)「ミレーとバルビゾンの画家たち」

六月二十九日~七月二十八日

ミレー、コロ、クールベ、ドービニール十九世紀フランスの画家二十一人の風景画、人物画など九十九点を展示した。また、期間中夜間開館(毎週金曜日)を実施した。

(3)「自然のかたちと美術―空と地と水と木と―展」

八月六日~八月二十五日

身近な自然のさまざまな様相を表現した七十九点の作品を展示し、自然と美術の深い関わりを探るものであった。

(4)「斎藤清墨画展」